TNC通信

富谷市日中友好協会
2024年5月号
第250記念号

6月23日（日）定期総会のご案内

富谷市日中友好協会の第２９回定期総会が下記の通り開催されます。前年度の活動及び決算報告と新年度の活動案と予算案、人事案の審議を行います。ご出席よろしくお願い致します。

【日時】６月２３日（日）午後２時開会、終了後に懇親会(会費 500 円)

【会場】町下会館（富谷市富谷西沢 85-1）会場は昨年と違います。

【会費納入のお願い】

当日は年会費の納入を受け付けます(後日の振込も可です)。会費は３０００円。但し中国語講座の会員は２０００円。なお、全国・県協会に加入の方は、別途６０００円の納入となります。全国協会機関紙『日本と中国』が毎月郵送されます。皆様の会費が活動の財源になりますのでご協力よろしくお願い致します。

写真は桃花(富谷市内で)

富谷町日中友好協会発行

TNC通信　創刊号　平成16年12月

平成17年　新年会開催　決定！

2005年"新年の集い"ご案内

この一年、皆様のご協力で富谷町日中友好協会の活動も小さいながら前進の足跡を残すことが出来ました。大変にありがとうございました。

新年の出発と春節のお祝いの意義をこめ、恒例の"新年の集い"開催することになりました。

会員の皆様、及びご家族、そして日中友好に興味の有るご友人の方々の参加で、楽しく且つ、有意義なひと時としてまいりたいと思います。

最後、お誘い合わせご参加くださいますようにとのお待ち申し上げます。

開催日時：平成17年1月23日（日）12：00～

開催場所：あけの平公民館　第一和室

参加費：大人500円　子供無料

集い内容：楽しいゲーム、留学生との交流、日本、中国のお正月の紹介

恭喜發財

≪新刊なぬ読み≫

「中国の大躍進・完全版」（講談社選書メチエ、高島俊男著、840円）

到何以来、天下を取った"大躍進"の歴史をいろいろ内容。ちょっと知的に、ちょっと面白く、間が抜けないが豊かな研究資料に基づき、盛ごたえはしっかり。完全版の解説は死後で時代を意識して解られた毛沢東の妄が加わったから。"これぞキワメツク最後の歴史学"との著者の見方に、異論？　反論？

●福（さかき）の意味って？

中国語で福という漢字の"倒"と、到来という意の"到"の発音が同じなので"福来る"となるからです。これには一つ物語があります。明の皇帝・朱元璋はある時、死刑者の家には"福"の字を貼るよう命令しました。これにより多くの皇居が食べの家に"福"の字を貼るようお触れを出しました。しかし中には字が読めない民衆もいて、逆さに貼ってしまった家もありました。それを見た皇帝は大変怒り、その家の者を死刑にしようとしました。皇帝はすぐにお前の者たちは今日あなたがここに来ることを知っておると逆さに貼ったのよ。これは福来るどころか死刑ではないかしら。とたしなめました。ここから"福"の字を逆さに貼るようになったともいわれています。

放映予定

年末スペシャル『意活の故郷を訪ねて』
平成16年12月29日　17：00～17：55　ZTVキテレビ（34ch）

今月の面白中国語

日本の"娘"は中国の"お母さん"
"姑娘"？お姑さんの娘？ってだ？・・・。
違う違う。中国では「クーニャン」と発音し、ごく小娘さんの意味です。
"皆"が付かない数は「ニャン」で「かあちゃん」。例えば　"（ママ）"が"媽"。では"姑娘"は？　えっ！おじさんが好きなあの方々ではないですよ。答えは来年・・・では、お楽しみに！

新会員のご紹介

熊谷　光子さん（大和町在住）
日本語教師として中国語の経験もあります。
中国語教室でも文力バッチリです。
よろしくお願いします。

創刊250号に寄せて

理事長　水戸雄二

富谷市に当協会が誕生したのは１９９６年５月でした。その後、会の活動や日中関係の諸情報の共有を目的に２００４年１１月に試案として「ＦＡＸ月報」、翌月には元会員の佐藤さんがＰＣメール時代を考慮し「ＴＮＣ通信」として第１号㊧を発刊し、増刊号を含め、会員の皆様に支えられ、今日に至りました。あらためて心より御礼申し上げます。内容的には“面白中国語”や“中国での思い出”等が好評だったように思います。これからも読者の皆様の意見そして投稿で紙面を充実させて、まずは３００号を目指してまいりたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

必見！「大シルクロード展」がオープン！！
＝6月9日まで、東北歴史博物館で＝

４月８日、東北歴史博物館で開幕式が盛大に行われ、村井宮城県知事、崔新潟総領事等の来賓が挨拶、テープカットが行われ、県協会も多数の招待を受け観賞しました。

展示は国家１級文物４５点を含む約２００点。東北以北では初めての公開であり、多くの会員・友人の皆さんに、そして世界平和を担う高中大生に見てほしい、と思いました。

私も一言

『春になったら！』　ＴＶドラマのタイトルみたいです―吉林省での植林事業は終了していますが、私の習性は未だに春になると植林訪中を懐かしく思い起こしてしまう。植林作業や学校訪問、朝市探訪、どれをとっても皆、生々しく、色あせずに蘇ってきます。野菜中心の料理の数々も何を食べても美味しくいくらでも食べられた。学校での子供たちのひたむきな学習風景も懐かしく、伝統工芸の紙切りに励む様子などはその際たるものでした。２０１７年の記念式典後は訪中することもなく、コロナ騒ぎやビザ問題などでなお遠い国になってしまっている状況ですが、そろそろ街も、川も、ポプラなどの樹々にも、でも何といっても温かな人々に会いたいと思う、この頃です。（本郷祐子）